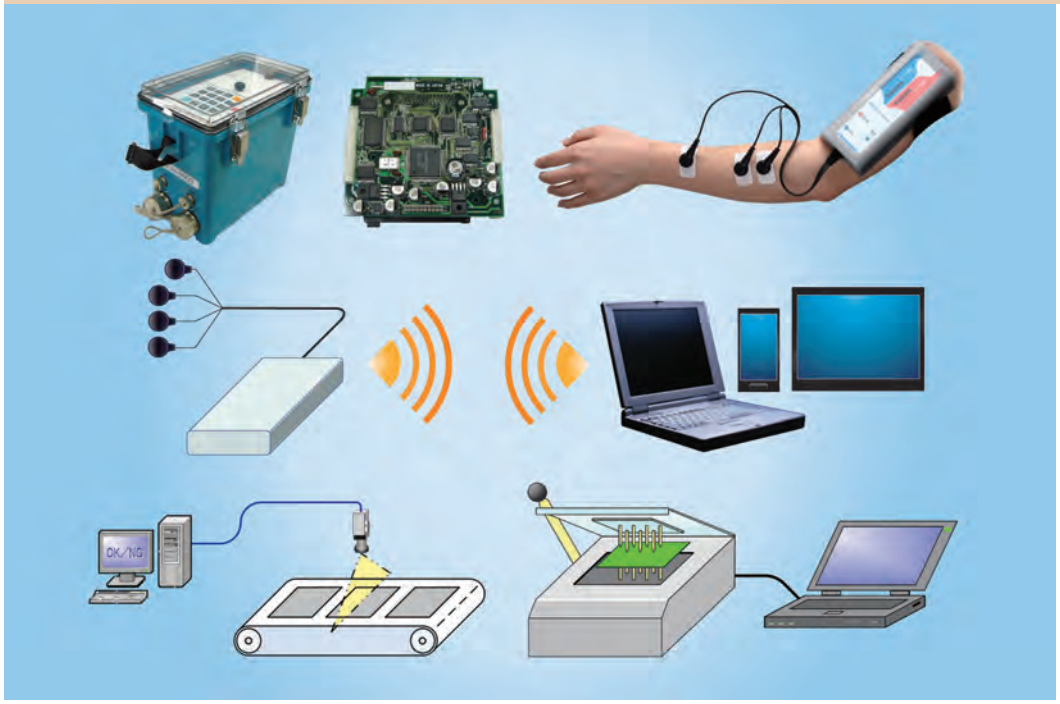
梅田電機 株式会社

ハード・ソフトの両面で多様な業界向けに受託開発

企画力自信有
メイドインジャパン
試作可小ロット



FAや医療など開発事例は多彩

業務内容 仕様書の作成や提案 設計・試作・量産まで

「梅田電機」は、各種検査や計測・制御における組込みシステムや画像処理システムなどをハードウエアとソフトウエアの両面で受託開発しており、顧客の要望に応じ開発や試作段階から検証まで一貫してサポートしている。

FA（工場自動化）向けの制御システム、ビーコン（発信装置）を活用したデータ収集システム、水道の水質を計測するデータロガー（記録計）、リハビリ支援向け医療機器など、開発事例は非常に多岐にわたる。さらに電子基板の開発ノウハウを生かし、ボードコンピューター「ラズベリーパイ」の産業用拡張ボードなども展開。各種産業向け検査や物体認識用途の画像処理システムも好調だ。

強み 大手メーカー下請けから幅広い営業戦略へ転換

家電、インフラ、素材、医療など、幅広い業界に展開しているのが強み。かつては大手電機メーカーからの下請け受注が大半だったが、メーカーの経営悪化にともない受注が減少。その苦い経験を踏まえ、平成10年前後には営業の幅を広げる戦略へ転換した。フラットパネルディスプレーの外観検査装置を皮切りに、主に画像処理システム分野で成長。

同19年には、空港の滑走路や誘導路内の照明が所定の方向から見て一定以上の明るさがあるかを検査する配光測定装置を、関西国際空港に納入し注目を浴びた。近年は医療機器製造業の登録を行い、医療機器の受託開発などで新規顧客を拡大している。

人材育成 積極的な知識吸収で従業員の技術力を強化

手がける事例のほぼすべてが、顧客の要望に合わせた特注開発の製品だ。顧客の思いを正しく聞き取り、独自の技術を盛り込んだ提案書を作成し、ゼロから設計・開発する。そのためにも、確かな技術力を持つ従業員の育成が不可欠だ。電子・情報工学分野の理系出身者を中心に採用し、入社後3カ月間は基礎的な研修を重視。その後はOJTによって実務経験を習得させる。

シンポジウムや学会・研究会などにも積極的に参加し、新しい技術を意欲的に吸収することを推奨。今後も若手の人材や経験者の採用を進めていく考えだ。

今後の展望 高まる要望で目指すAI技術組込みシステム

データ解析や画像処理システムの分野では、AI（人工知能）技術を組込んだシステムの要望が高まっている。技術者の育成を急ぎ、2019年度にはシステムの提案を目指している。画像処理システムでは3次元計測分野を強化し、FAの導入に求められる高精度な検査ニーズへの対応を進める考えだ。

新規分野では、医療機器の受託開発の割合も増えている。しかし、顧客の種類が多様化する一方で、対応する技術者の数は限られる。技術者の教育に対しても積極的に投資を続けることで、5年後には生産性を現在の1・5倍にまで高める目標を掲げている。

水質などを測定するデータロガー

関空にも納入された配光測定装置

当社の歴史

大阪30 ISO 14001

創業者の絹谷勇が大阪市北区梅田の地で電気機械の販売を始めて以来、徐々に規模を拡大してきました。当初は大手電機メーカーからの受注に頼っていましたが、自立した開発型の会社になるべく、平成10年頃に戦略を一大転換。画像処理システムや配光測定装置などの自社製品の展開を強化しています。

代表取締役社長 **高瀬 直寿（なおとし）さん**

http://www.umeda-electric.co.jp/

主な事業内容
検査・計測・制御システムや電子機器などの受託開発

主な取引先（納入先）
家電業界、インフラ業界、素材業界、医療・福祉業界

●住　所　〒553-0003 大阪市福島区福島6-9-9
●TEL　06-6458-8931
●FAX　06-6452-2164
●創　業　昭和26年5月
●設　立　昭和29年4月
●資本金　3,000万円
●従業員　40名